

2020年7月23日(木)

老球の細道553号

Go To 「バスケットボール U-18 会津地区強化練習会」

会津バスケットボール協会 室井 富仁

今年の流行語大賞最有力候補と言われる「三密」は新型コロナ対策だけに使われているキーワードではなく、千年以上も前に弘法大師空海が広めた仏教真言宗の教えにも使われていた。真言宗の「三密」とは「身密」、「口密」、「意密」。「密」とは、空海が唐から伝えた密教の密をさし、仏と一体となる修行を意味し、からだや行動(身)を整え、言葉や発言(口)を正しいものとするれば、おのずと心や考え(意)も整うという。人間や、アスリートにとっても大切な「もう一つの三密を、猪苗代のあるお寺の住職さんが朝日新聞に寄稿していた。

空海の三密は積極的に推奨されるキーワードであるが、新型コロナウイルスという新興感染症のための「密集」「密接」「密閉」などと密の後ろに余計な言葉がつくキーワードは、今日普通の日常を疑心暗鬼に追い込んでいる。そのため、終戦後(戊辰戦争後ではない)毎年あたりまえに行われてきたインターハイ、国民体育大会などの全国大会、それに繋がる予選大会がことごとく中止に追い込まれるはめになった。高校スポーツにとっては歴史に残る前代未聞のできごとである。

しかし、緊急事態宣言が解除されて一旦落ち着いたかに思えたコロナ感染がまた復活しつつある状況ではあるが、中止に追い込まれた高校生の各スポーツの全国大会、県大会、地区大会に代わる代替大会などの催しが全国的にスタートした。その前に部活動の練習が再開され、どれだけ部活動が日常生活に重要な位置を占めていたか気づいた人は多かったことだろう。残念ながら何事も大切なことは失ってから気づく。

そんな折、バスケットボール競技は「三密」危険が高いということで、福島県レベルの代替大会は今回見送られた。しかし、当会津地区のU-18高校生の代替大会は「U-18強化練習会」と銘打って、地区U-18部会、高体連関係者、そして審判部会などの熱意と英断をもって開催することができるようになったことはとてもうれしい。

世間では、コロナ禍がまだ完全に収束していない状況の中で、もし代替大会を実施して感染者が出たらどうするのか、誰が責任を取るのか、などというプレッシャーのある中で、歴史に残る大いなる決断をした大会関係者に深く敬意を表したい。

リスクゼロや責任の有無を言い出したら物事は何もできない。家の中で、おとなしく誰とも接することなくじっとしているしか術がなくなってしまう。また、「スポーツは遊び、皆がやっていいというまでがまんするしかない」という人もいるが、スポーツ文化は「無用の用」と言われ、こういうときこそ落ち込んだ気持ちを元気にするツールである。元気になった気持ちが、色々な面でマイナスに向かいがちな気持ちをプラスに変える。そしてコロナ終息に向けて、さらに試練を乗り越えるためのエネルギーを培ってくれることだろう。

最後に、U-18の大会成功がU-15(ジュニア)、U-12(ミニ)の成功に波及効果を及ぼす。がんばってほしい。私は「Go To トラベル」を自粛して「Go To U18」で連休。